

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集 「公民館を地域の“^{らくえん}楽縁”に」新潟経営大学教授・中島 純

4.5

2 **トピックス** 「市町村執筆割当」 月報編集委員会

3 **視点** 「挨拶の大切さ」 県立新潟西高等学校長・片岡 克教

3 **ひろば** 「公民館に足を運ぶようになり」 湯沢町・飯塚 由加

6 **実践記録シリーズ** 「阿賀ふるさとカレッジ ふるさと発見教室」 阿賀町公民館

7 **サークル交流** 「全身のバランスを整えて柔らかく」(出雲崎町) / 「テーマは楽しい水彩画」(長岡市)

7 **素顔拝見** 清田 香織さん(阿賀町) / 長谷川昌美さん(三条市)

8 **お元気ですか** 「ダンスは良薬！」十日町市・小川 五郎さん

8 **県公民館大会写真スナップ ネットワーク**



子育て親子カフェ「花どけい」“ちびっこ運動会”(阿賀野市)

表紙解説

水原公民館では子育て支援ボランティアが中心となり、子育て奮闘中のママ・パパに憩いの場を提供しています！

市町村執筆割当決定
本紙第1回編集委員会開催
編集長 田原 理

本年度第1回目の編集委員会が7月24日(木)に新潟市中央公民館で開催されました。



- 会議では、
- 1 市町村記事執筆割当の検討・確認
 - 2 特集記事執筆割当の一部変更
 - 3 紙面構成についての意見交換
- について協議されました。編集の基本方針については昨年度末の第2回編集委員会で検討され、本年度の紙面構成は前年度を継続することになっていきます。新しく、後期に表紙等を一

部カラー化することや過去の月報を電子データ化して昭和年代の月報をホームページに公開していることが報告されました。

また、新たに平成年代の月報をホームページに掲載する作業が継続されています。今年度の編集委員が一部変更になりました。委員名簿は次のとおりです。

- 大坪 美樹・新任 (上越市立公民館)
 - 長谷川健康・新任 (三条市中央公民館)
 - 佐藤 亨・新任 (出雲崎町中央公民館)
 - 渡辺佳津志・新任 (聖籠町公民館)
 - 吉田英津子・新任 (新潟市白根地区公民館)
 - 船山 靖子 (新潟市中央公民館)
 - 長谷川明寿 (県生涯学習推進センター)
 - 田原 理・編集長 (県公連事務局長)
- 今年度後期から来年度前期までの市町村の原稿執筆割当

公民館月報原稿執筆割当一覧 平成26年10月～27年9月

は次のとおりです。ご協力をお願いします。

月 号	表紙	ひろば	サークル交流		素顔拝見		お元気ですか
H26年10月	魚沼市	燕市	柏崎市	刈羽村	新潟市	弥彦村	胎内市
11月	弥彦村	見附市	新発田市	阿賀野市	南魚沼市	佐渡市	五泉市
12月	加茂市	柏崎市	十日町市	長岡市	刈羽村	新潟市	燕市
H27年1月	五泉市	三条市	糸魚川市	十日町市	阿賀野市	魚沼市	柏崎市

月 号	表紙	ひろば	サークル交流		素顔拝見		お元気ですか
H27年2月	長岡市	村上市	田上町	小千谷市	新発田市	上越市	佐渡市
3月	関川村	新潟市	村上市	胎内市	阿賀町	長岡市	見附市
4月	湯沢町	佐渡市	見附市	新潟市	十日町市	五泉市	小千谷市
5月	新潟市	上越市	三条市	燕市	村上市	柏崎市	関川村

月 号	表紙	ひろば	サークル交流		素顔拝見		お元気ですか
H27年6月	小千谷市	新発田市	佐渡市	聖籠町	長岡市	胎内市	十日町市
7月	南魚沼市	出雲崎町	上越市	津南町	小千谷市	田上町	弥彦村
8月	妙高市	阿賀野市	長岡市	新潟市	見附市	上越市	糸魚川市
9月	三条市	津南町	新発田市	加茂市	村上市	新潟市	粟島浦村

視点

「挨拶の大切さ」

県立新潟西高等学校長 片岡 克教



今年四月に本校に赴任して以来、毎朝私も他の先生方と一緒に生徒玄関に立って登校してくる生徒に挨拶をしながら迎えている。多くの生徒は気持ちよく挨拶を返してくるが、中には挨拶があまり得意でない生徒もいる。

私は三月まで就職者が多い学校に勤務していたが、企業の人事担当者の多くが高校生活に望むこととして挙げるのは、挨拶と返事をきちんとして時間を守ることであった。挨拶とは、相手の好き嫌いはともかく先ずはあなたに対して敵意や悪意はありません、という意味である。このため

挨拶の方法にも敵意のなさを表現する行為に由来するものが多い。欧米人の行う握手は手に武器を持っていないことを証明することから始まったといわれるし、軍隊の兵士が行う敬礼は中世ヨーロッパの騎士たちがヘルメットの目隠しの部分を開けて、相手に自分の目を見せて敵意のなさを示したことが起源である。そして我々日本人が行うお辞儀も、自分の首を相手に差し出して、敵意がないことを表現したのが由来だといわれる。

できるだけ多くの生徒から(大人からも)挨拶の重要性に気づいて欲しいと思う。

H O T N E W S

掲 示 板

県大会開催 終了

今年度の県大会が開催され大成功で終了しました。

日時 平成26年7月17日(木)

会場 新潟市江南区文化会館

大会の詳細は、「県大会を振り返って」を大会事務局新潟市中央公民館 鈴木俊樹補佐が執筆して10月号特集にて詳しく紹介されます。



永年勤続者表彰



事例発表

ひろば

「公民館に足を運ぶようになり」

湯沢町社会教育委員・公運審委員 飯塚 由加

「公民館に足を運ぶようになり」、かれこれ14年目。それ以前は子どもを連れて絵本の読み聞かせやコンサートの数回。平成13年に体育指導委員(H25よりスポーツ推進委員に呼称変更)となり会議や教室の打ち合わせ等。スポ推以外でも、赤ちゃんひろばやワンツーキッズの運動遊びの講師。娘達がお世話になったジュニアスキーの事務局も公民館。今年度より社会教育委員・公運審の役を頂き、また深く関わる事となりました。



公民館事業の中で私が関わっている活動は、家庭教育・子育て支援・生涯スポーツ推進です。からだ動かはこころもはずむくこんなキャッチフレーズをもつ親子GE

NK1教室があります。このフレーズはいろんな場面で、赤ちゃんマツサージ・ワンツーキッズ運動遊び・町民スポーツ大会(ソフトバレーボール、ソフトボール、地区運動会・町民ハイキング・その他教室。たくさんの方に共有して言える事です。

「学び・活かす・広げる・支える」を、体を動かす事を通してこころ弾ませながら、これからも続けていきます。足繁く通います。湯沢町公民館!!

らくえん “楽縁”に

講座づくりにかかわって

術」を2年にわたり実施し、今年は秋に開催予定の第3弾を目下、計画中である。

「あと5歳！若く見られるための習慣術」

新津・小須戸地区公民館共催事業「あと5歳！若く見られるための習慣術」は、「人生の折り返し点を過ぎてからの暮らしをうるおいあるものに」をテーマに、身も心も若返るアンチエイジングの習慣術を学ぶ講座である。

昨年プログラムでは、人づきあいをよくする「社交コミュニケーション」、指先美人をめざす「ネイルアート」、メリハリあるボディをつくる「ボディメンテナンス」、和のテイストで気品を磨く「邦楽器&装い体験」をおこなった。これらに加えて、受講者同士が知恵や情報を分かち合うワールドカフェを開いた。これにより職員、スタッフ、そして受講者同士のつながりが築かれていった。最終回では受講者全員に修了証が手渡され、また、運営にかかわった運営審議会委員には受講者一同から感謝状が手渡された。ほっこりと心温まるこうしたエピソードは公民館ならではのものだ。過去2回の講座では、秋葉区外からも受講者を集め、また、それまで公民館になじみのなかった住民の参加がなされるなど、公民館の敷居を下げ間口を広げる効果をもたらした。

おかげで、今年は企画委員に5人が名乗り出て、毎月開催されている準備会議では、公民館スタッフ、運営審議会委員とともに打ち解けた雰囲気で見聞話の話し合いがなされる。職員が主導しない会議なので、型にはまらず自由闊達に意見を交わすことができる。どんなコンセプトで各回のプログラムを開くか、講師はどのような人が適任か、講師にはどのような指導をお願いするか、受講者同士がつながる仕掛けはいかにすればよいか、会場の環境は？など、受講者目線からの斬新でユニークな意見が湧出する。これが実



昨年、大好評だったネイルアート
挑戦プログラム



企画運営会議の様子—職員・運営委員・企画委員のベストミックス

に楽しい。「去年と同じようにやればいろ〜」という前例踏襲に陥ることもない。仕事を終え、わざわざ職場のある豊栄から新津まで駆けつける企画委員もいる。コーヒーをすすり、お菓子を食べながら、和気あいあいとした雰囲気での会議は行われる。開催に至るプロセスが楽しい講座は、平成25年度「あと5歳！若く見られるための習慣術」プログラム

間違いなく充実したものになることをわたしは確信している。

むすび

公民館は、定年を迎えたシニアが、コミュ活デビューするのに最適な場である。その意味でも、市民に開かれたものとならねばならない。敷居を低くし間口を広げる、そんな仕掛けと仕組み作りが求められている。公民館関係者は新しい利用者層の開拓に意欲的に挑んでいくべきだ。

わたしは、公民館を通じて実に多くのステキな人と出会うことができた。おかげで新潟でのコミュニティライフをエンジョイできている。なによりも自分自身のために、公民館とのつきあいを大切にしていこうと思う。

回	月/日	「テーマ」(内容)	講師(敬称略)	会場
1	10/2 (水)	「はなす」 あいさつ、自己紹介、司会など 地域ライフを楽しむための 「コミュカ」	フリー アナウンサー 松井 弘恵	新津地域 学園
2	10/9 (水)	「いろどる」 おしゃれのポイントは指先 ネイルアートに挑戦	ネイリスト 若杉ちひろ	新津地域 学園
3	10/16 (水)	「つながる」 ちよつと一息「茶話会」 気軽なおしゃべりを!	カフェマスター 中島 純	新津地域 学園 音楽室
4	10/23 (水)	「ひきしめる」 スッキリ! ボディメンテナンス	ボディワークスタ ジオ ガレージ1 水科江利子	新津地域 学園
5	10/30 (水)	「よそおい・かなでる」 着物に邦楽器 和のある暮らしで気品を磨く	三味線演奏家 浅川 玲伎 むらき呉服店 村木 政寛	新津地域 学園

●プロフィール

中島 純 (なかじま・じゅん)

神奈川県相模原市出身、新潟県新潟市在住。新潟経営大学経営情報学部教授。専門は教育学・青少年教育論。子育て支援NPOヒューマン・エイド22副代表理事。新潟市新津地区公民館運営審議会委員。燕市生涯学習推進協議会委員。エフエム新津「子育て応援しますCHATランド」番組パーソナリティ。

著書に『自分づくりガイドブック—迷子のわたしたちに』(野島出版)・他

公式ブログ「ひとづくり まちづくり じぶんづくり」

<http://blog.goo.ne.jp/nakajimajunjun/>

特集

公民館を地域の

新津・小須戸地区公民館共催シニア向けの



新潟経営大学教授
新津地区公民館運営審議会委員
中島 純

公民館は街の銭湯である

公民館は銭湯に似ている。存在すら知らない人はほとんどいないし、町のどこにあるかは古くから住んでいる人ならたいがい分かっている。でも、使う人は使うし使わない人は使わない—なので、公民館事業の認知度はそう高くない。そこでは一体どんな人が働いて、何をやっているかはあまり知られていなかったりする。でも、何かのきっかけで、公開されている講座とかに出てみると、存外に楽しかったり、また、友人もできたりして、やがて足繁く通うようになり、気が付けばどっぷり浸かっていたりする。銭湯といっしょでリピーター利用が多い。居心地の良さ、ビミョーにぬるい湯加減で住民を惹きつける魅力がある。

公民館は基本、“行政の館”。なので、商業イベントのごとき集客のための派手な宣伝を打つことはない。しかし、IT全盛の時代、ウェブサイトでの情報発信は重要である。新潟市の場合、「新潟市・公民館」で検索を掛けると、市の行政サービス案内がトップに来て、市内各区の公民館の一覧リストがずらりと出る。市内全館、見事なまでの画一表示、「施設使用料」「施設概要」「フロアについて」「催し物のご案内」の各リンクと公共施設予約のバナーが貼られてはいるが、人目を引くデザインや装飾はかけらもない。シンプルかつ質素であることがイズムであるかのような色気のなさだが、市の「ホームページの考え方」には、「利用者が繰り返しアクセスしたくなるような魅力ある情報提供を心がけます」とあり、これには苦笑いだ。

それでも、市内の公民館、集まる所には人は集まるし、活況を呈する事業を展開しているところもある。ただ、全体的に、利用者数、定期利用団体数ともに低減傾向にあるのは確かだ。予算削減、人員整理などで、年々先細っている観は否めない。わたしの住む秋葉区には、小須戸地区公民館という地元住民に長く愛されてきた古い公民館がある。独立した建物を有し、地域密着でローカル色豊かな活動で県下に誇れる館であるが、施設老朽化にともなう取り壊しを機に、来年度から複合型施設となるコミュニティセンターに収まることになる。リニューアルオープン後の利用者減、事業縮小が気になるところである。

「うちの公民館は、元気ですよ～、年がら年中、賑わってますよ～」と誇れるところは、新潟市だけでなく、県下でも、そう多くはないのではないかな。もったいない事だと思う。住民が「集い、学び、結ぶ」公民館は、少子高齢化と人口減少が進行し、人間関係が希薄化する地域の現状からすれば、社会における役割期待はますます大きくなるはずだからである。

市民学習サービスの老舗

今年、わたしは新潟県高齢者大学の講師を仰せつかった。カリキュラムには、「社会・生活」「健康」「福祉」「地域活動」など、座学による講義、演習、まち歩きなど多彩な学習プログラムが開設され、公民館さながらのバリエーションを示している。年齢的には団塊世代が多く、会場によっては応募者数が定員を超えるため、受講者は抽選で決められるという。受講者に入学の理由、動機を訊ねると、「定年後の暮らしにハリを持たせたかった」、「家にこもりがちになるので社会に出るきっかけがほしかった」、「仲間づくりのために受けようと思った」と答える人がかなりいた。まさに、学びの縁で集い、人とつながることを目当てにしているのだ。

そう、これは、公民館のニーズと同じである。公民館は昭和の時代にあっては“市民向け学習サービスの百貨店”であった。ところが平成になり、「○○センター」と呼ばれる行政サービス機関が整備されていったため、公民館以外でもさまざまな学習活動プログラムが提供されるようになり、公民館は学習サービスの小売店舗に過ぎなくなり、かつての存在感は示しえなくなった。それでも、一味も二味も違う、公民館ならではのアプローチがあるわけで、公民館関係者は、そのことを意識して事業づくりに取り組むべきではないか。

コミュ活と公民館

地域の公民館には、貸間で利用する人のほかに、サークル等の団体で利用する人、公民館主催事業に参加者として利用する人、そして、運営委員や活動支援員、企画委員、ボランティアなど職員と一緒に公民館事業をスタッフサイドでかかわる人たちがいる。

わたしは、地域コミュニティに、自由意思でかかわることで、仕事・家庭外の生活時間を充実させ、他者との関係を良好に築きながら、生きがい追求する活動のことを“コミュ活”と呼んでいる。高齢者が増え、子どもの人口比率が下がり、人口減少社会となり、また、人と人のつながりも多様化し、人間関係が難しくなっている。日本人の孤独化は深刻だ。今後、生きがい喪失者、魂が抜けたようにかろうじて命だけを長らえる人は確実に増えていくであろう。そんな時代を生きるには、世のため人のためという覚悟をもったボランティアもよいが、もっと気楽に、自分自身のために行うコミュ活、一すなわち、身近なところから進んで人間関係を築き、居場所を地域に広げていく実践が求められる。公民館は地域にあってコミュ活の身近な入り口になるのでは、と考える。

わたしは、新津地区公民館の運営審議会委員を長くさせていただいているが、以前、同館主催事業「落語ライフ入門講座」の企画コーディネートを3年にわたり手がけたことがある(中島 純「公民館運営審議会を元気印に」『新潟県公民館月報』2010年6月号所収)。平成24年からは、シニア世代をターゲットにした生きがいづくり講座「あと5歳!若く見られるための習慣

実践記録

197

シリーズ

阿賀ふるさとカレッジ「ふるさと発見教室」

阿賀町公民館

1 本事業の目的

ふるさと「阿賀」の歴史・文化・自然について講義、探訪体験、見学等の活動を通して学習し、郷土の魅力を再発見し、理解を深めてもらうことを目的とし実施する。

2 事業主体

阿賀町公民館 阿賀ふるさとカレッジ実行委員会

3 参加者数

延べ 129人

4 回数

5回 5日間

5 会場

阿賀町内及び近隣市町村

6 開催日による事業テーマと主な内容

①5/21(火) 27名

『上川、月山(336m)のブナ林を訪ねる』

月山、山頂にはブナの巨樹とユキツバキが群生する典型的「ブナユキツバキ群落」です。優れた環境は野鳥の宝庫でもあり、新潟県自然環境保全地域に指定されています。

②6/11(火) 30名

『大河ドラマ「八重の桜」の史跡を訪ねる

—鶴ヶ城を中心に—

○和歌を詠んだ雑物蔵○小田山に大砲を撃った豊岡○東照宮・延寿院○山本覚馬・八重の生家跡○八重がゲーベル銃で戦った西出丸○八重が藩主に砲弾を分解説明した鉄門○八重がスペンサー銃で狙撃した北出丸などをガイドしていただきました。

③7/9(火) 28名

『会津街道起点の会津藩小川庄「赤谷」

(新発田市)を訪ねる』

赤谷の歴史は古く、越後の城氏が「小川庄の赤谷邑」に城を築いたと吾妻鏡に登場し、江戸時代には会津の西口として番所が置かれ、八代藩主松平容敬も国境巡見の際に訪れています。戊辰戦争では西軍の進行を阻止しようと一般の領民も会津の兵とともに参戦し激しく戦ったといわれています。

④9/10(火) 28名

『新宮氏「首の宮」ゆかりの新宮城址を訪ねる』

室町時代の前期は南北朝に分かれた時代で、中央でも地方でも抗争が絶えなかった。これにつれ、会津の芦名家も同族同士が対立や抗争を繰り返した。阿賀町新谷での「新宮氏首の宮」跡の発見に合わせ、新宮氏第10代城主時兼で滅亡した新宮城址を訪ね、当時の越後や小川庄との関わりを深く学習しました。

⑤10/8(火) 16名

『津川町東部(平堀～ハツ田)の街道と

史跡を訪ねて』

旧津川町東部の各集落で街道がどのように変化したかを知るため、その道跡を調べ、会津街道と三方道路の所在、一里塚跡、惣座峠を見て、鳥井峠ではかなり長く会津街道が残るので散策を行い、会津街道、三方道路、国道49号線までの変化の様子を探り、街道に付随する史跡、馬頭観世音、不動滝、天満堰、被服廠の坑道などを訪ねました。



現地ガイドにより説明



地域の方による赤谷鉱山の説明

7 成果

各回の教室により阿賀町と他市町村との関わり、阿賀町の歴史等が発見又は再発見された。今後も参加者は阿賀町とはどういうところなのかを再認識されるのではないかと思う。

8 課題

講師としての人材不足が心配され、新しい講師を発見又は育成することが大切ではないかと思えます。

(阿賀町教育委員会 担当：加藤)



全身のバランスを 整えて柔らかく

出雲崎太極拳サークル

十年ほど前に公民館主催の「太極拳教室」が開催されました。教室が修了した後も続けたいと仲間が集まり、武術太極拳を選び、「出雲崎太極拳サークル」が誕生しました。現在会員は四十代から七十年代までの十五名です。長岡太極拳協会所属「悠久の会」から泉先生をお迎えして、毎週水曜日七時三十分から九時まで練習をしています。



「入門」「初級」「二十四式」と続き現在は「三十二式剣」を学んでいます。とはいえ、なかなか覚えられずに繰り返し繰り返し返しの毎日です。最初の二十分間のストレッチで全身の筋肉をゆるめず。手足を別々に動かす演武は脳細胞を活性化し物忘れ防止に有効です。ゆっくりと伸びやかな動き

は、足腰を強化して転倒防止に役立ちます。

また、毎年十一月には「生涯学習フェスティバル」に参加して、町内の皆様に努力の成果をご披露させて頂いています。これも私達には良い刺激となっております。出雲崎太極拳サークルは、楽しく仲良く柔らかく、若々しい身体づくりを目指して頑張っています。

出雲崎町・
出雲崎太極拳サークル
高橋 英子 記



テーマは楽しい水彩画

オリオンの会

長岡市中央公民館を教室に活動する水彩画のグループです。市内でも創立は古く、年

1回のグループ作品展も今秋で29回目を数えます。

現在、講師に日展に十数回入選され光風会「会員」の田中守先生を迎え、月2回の教室の他に市展や公募展への出品などと写生旅行などを実施しています。先輩も多く今年の県展洋画部門の県展賞を受賞された見附市のYさんなどを輩出しています。

現在は初心者ばかりですが仲良く楽しい教室で田中先生中心に盛り上がっています。残念ながら会員が減少しつつあり募っております。特に初心者の方は大歓迎ですので興味をお持ちの方はご一報下さい。お待ちしております。



長岡市・オリオンの会
関 健一 記

阿賀町公民館の紅一点。ご覧のとおり実に“ほんわか”した雰囲気をかもし出している香織さんは、一男一女の二児の母。子ども達との時間も大切な時期ではありますが、彼女はそんなことを周りに感じさせず積極的に公民館活動を計画し実践しています。

特に「本」に関してはこだわりを持って仕事をしています。絵本ワールド、ブックスタートなどの事業で小さいときから本に親しみ、

阿賀町公民館津川分館
主任 清田 香織さん



本のおもしろさを感じてもらえるよう、自分の育児体験を踏まえてボランティアの人たちと活動を進めています。充実しているとはいいい難い本町の図書関連の施設設備が、彼女の「本」に対する思いによって図書館整備構想が加速することを期待しています。

(阿賀町公民館 野村 秀樹 記)

三条市大崎公民館のフレッシュレディ長谷川昌美さんを紹介いたします。

今年度採用ピカピカの新人です。当館では4月から勤務していますが、先輩の助言を受けながら堅実に業務をこなしている姿は頼もしく感じられます。窓口対応では地域の皆様に笑顔と親しみを以て接している様は好感が持てます。

窓口対応の他にも、男の料理教室、パソコン教室、ゲートボール大会などの成人講座やどんぐりクラブ、子どもエプロンクラブの青少年講座を担当している様子は、

三条市大崎公民館
任用職員 長谷川昌美さん



新人ながら本当に良くやっていると感心します。今後取り組みたい事業は絵画、陶芸など文化事業であると意欲的に話しています。モットーは、真面目にコツコツと努力する事とのことであり、将来の夢は三条市の文化振興に貢献したいと思いと、力強く語ってくれました。彼女の成長と活躍を大いに期待したいものです。

(三条市大崎公民館 館長 渡邊 秀雄 記)

素顔 拝見

大会の詳細は10月号の特集に掲載しますが事務局が撮影したスナップ写真を紹介します。



アトラクション「越王太鼓」の熱演



永年勤続者表彰受賞43名



好評・記念講演「永田宏和」講師

県公民館大会写真スナップ

お元気ですか



「ダンスは良薬！」 小川 五郎 (十日町市)

60歳以上対象の明石学級（公民館主催）の社交ダンスコースに参加して早5年目に入りました。3年目からはコース長を拝命し、20数名の仲間と楽しく踊っています。

講師の指導は的確で皆さんどんどん上達しています。身体を動かし、ステップの習得に脳も使うので老化防止に最適です。87歳の方は私どもより元気に踊っています。

どこのダンスサークルも同じようですが、男性の参加が少なく苦勞しています。年に数回のダンスパーティでより懇親を深め、楽しみながら長く続けたいと思っています。

※「お元気ですか」のコーナーは現役をリタイアした方がその後も元気に活動している様子を紹介するコーナーです。

Network

県立生涯学習推進センター「コミュニティーリーダー研修会」

全国的に活躍している「松本大学・白戸洋教授」を講師に迎えて研修会が行われます。

- 1 研修内容：「公民館で地域がよみがえる」講義とグループワーク
- 2 会場：県立生涯学習推進センター
新潟市中央区女池南3-1-2
- 3 対象：市町村生涯学習関係職員
社会教育主事 NPO 等地域づくりに関心のある方
- 4 申込み：平成26年9月1日(月)まで
参加費無料 定員50名
- 5 問い合わせ：生涯学習推進センター
学習振興課 長谷川 TEL 025-284-6110

事務局長のつぶやき
夏の高校野球新潟大会の決勝戦は9回の裏さよならホームランでした。勝って泣く日本文理の選手。負けて泣く関根学園の選手。スポーツ選手の涙は見てくれる者をも感動させます。本号が出る頃は甲子園での戦い真つ最中。また新たな涙の場

道路ふれあい月間

毎年8月は「道路ふれあい月間」です。

『子や孫に つなげていきたい 道がある』

国土交通省平成26年度「道路ふれあい月間」推進標語一般の部最優秀賞

新潟県道路整備協会

会長 (田上町長) 佐藤 邦 義

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内

TEL 025(285)0041 FAX 025(285)1609

面が多くあることでしょう。スポーツ選手の涙は純粋だからこそ共感を呼ぶのではないのでしょうか。共感できない涙もあります。それは「号泣県議」。海外「ニュース」にもなった恥ずかしく、醜い「涙」でした。(田原)